

こんにちは 2017年11月2日No.154

ちかざわ美樹です

日本共産党 市議会議員活動報告



☎&fax 042-582-1870
☆自宅:日野市万願寺 6-35-9
カサベルデ 201
☆ちかざわ事務所(三沢中学校
のそば)日野市三沢 1-13-5

いつでも、どんなことでもお電話下さい 携帯はこちら→090-9313-1192
なんでもご相談下さい メールアドレスはこちら→chikamiki222@gmail.com

実効ある公契約条例制定でワーキングプア根絶を!

公契約条例制定へむけて市が講演会開催

10月31日(火)、日野市主催による「公契約条例について考える」と題した講演会が開催され、市の職員はじめ多くの方が参加されました。

法政大学大学院教授の武藤博己さんが「公契約条例の意義と公共サービスの改善」というご講演をされ、その後、日野市公契約条例検討委員会委員長の明星大学教授西浦定継さんが「公契約条例制定に向けた検討状況について」の報告を行いました。

日本共産党市議団は市に対して繰り返し条例制定を求めてきました。市内の東京土建など建設三団体からも要望が出されており、超党派の議員連盟(私も党市議団を代表し参加)も制定へむけて提言を行いました。

現在、事業者団体や労働者団体代表を交えて「公契約条例検討委員会」が検討を行っており、11月には素案を発表、パブリックコメントを募集する予定です。

「委託」を対象にすることが肝心

検討委員会の検討状況では、「めざす条例の対象」を「工事・委託(指定管理者制度含む)」としていますが、「条例制定時まずは工事のみでスタート、その後委託へと拡大」としています。

現在、市の業務の多くが委託されています。委託についても賃金水準の低下や労働条件の悪化により公共事業や公共サービスの品質の低下を防ぐために必ず条例の対象にしなければなりません。

公契約条例とは?

市の工事や事業、市の仕事を委託して行う現場で働く全ての労働者に対して支払われる賃金の最低基準額を保証するために制定する条例の事です。



ごみ広域化計画強行は許されません。白紙にして住民と一からの見直しを!

【日本共産党の無料法律相談】 第1.2.3木曜日予約制です
第1.3木曜日 18:00~20:00 第2木曜日 13:00~15:00



学習会にぜひご参加下さい！

変貌する自衛隊、安倍9条改憲でどうなるか

「自衛隊を憲法に明記したら自衛隊がどれほど危険な役割を担わされるか」自衛隊の現状をリアルに知って、『安倍9条改憲 NO！3000万署名』をすすめる力にする学習会です。

11月16日（木） 18：30～20：30 場所：日野市生活保健センター講座室

講師：布施祐仁さん（日本平和委員会『平和新聞』編集長）

* 自衛隊「南スーダン日報」を開示請求し、告発した本人です。

共催 平和・民主・革新をめざす日野懇話会（ひの革新懇）

戦争はいやだ！平和憲法守ろう！日野の会



安倍首相による9条改憲を阻止するため、広範で多様な人々を結集しようと「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」が結成され、3000万人を目標にした9条改憲に反対する一大署名運動が提起されました。日野でも「市民アクション」が取り組まれます。

【安倍9条改憲NO！全国市民アクションの発起人19氏（敬称略）】

有馬頼底（臨済宗相国寺派管長）、内田樹（神戸女学院大学名誉教授）、梅原猛（哲学者）、落合恵子（作家）、鎌田慧（ルポライター）、鎌田實（諏訪中央病院名誉院長）、香山リカ（精神科医）、佐高信（ジャーナリスト）、澤地久枝（作家）、杉原泰雄（一橋大学名誉教授）、瀬戸内寂聴（作家）、田中優子（法政大学教授）、田原総一郎（ジャーナリスト）、暉峻淑子（埼玉大学名誉教授）、なかにし礼（作家・作詞家）、浜矩子（同志社大学教授）、樋口陽一（東北大学・東京大学名誉教授）、益川敏英（京都大学名誉教授）、森村誠一（作家）以上

日本共産党発行



日刊●月 3497円
日曜版●月 823円



東京民報は東京がよくわかる週刊新聞、月額400円、躍進した日本共産党都議団の情報も満載です。見本紙をご希望の方はすぐお届けします、ご遠慮なくご連絡下さい。しんぶん赤旗といっしょに配達・集金をします。ぜひ、ご購入を！

いのちがいらばん

（自己紹介のつづき）前進座「母」の上演が成功し、まちの中で人がつながり社会に働きかける「市民運動」を面白いと思うようになりました。息子のアレルギーの症状が重いことから、環境汚染や食品の安全等への関心が高まり、新日本婦人の会（新婦人）の活動をするようになりました。広島での原水爆禁止世界大会へも新婦人の活動を通じて参加、「核兵器は人類と共存できない。廃絶は『究極の願い』ではなく自ら道を拓き勝ち取るもの」と被爆者の方々から学びました。社会に対する不満や怒りがあれば、まず行動、共感する仲間を増やす、行政や政治家に働きかける・・・やっと主体的な生き方が始まりました。



ちかざわ美樹